

# 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 感染症専門医養成講座



令和7年度  
令和8年度

事業報告書  
事業計画書

# 本講座の4つのミッション

## プログラムに沿った 感染症専門医の養成



鹿児島大学病院を中心にプログラムに沿った研修で臨床経験を積みます。→[研修プログラム](#)

他大学とも連携し、経験の難しい症例などを症例検討会などで学習します。→[研修会の予定](#)

## 医療機関等の感染管理・ 改善方法の修得／地域連携の推進



平時の感染管理を鹿児島大学病院などでのICT活動を通じて学び、PDCAサイクルを活用した改善アプローチについて修得します。また、これらの活動を県内の医療機関・施設連携を通じて横展開し、地域での感染管理の連携強化を図ります。

## 医療機関・福祉施設等の 集団発生対応支援



医療機関・福祉施設等の集団発生時の疫学・感染管理・組織運営の支援を通じ、アウトブレイク対応を共有します。

## 感染管理・診療に 関する研究



学内外の講座と協力し、MRSA等の薬剤耐性菌や新型コロナウイルス等医療機関で問題となる病原体の感染管理や感染症治療に関する研究を行います。

感染症専門医の養成

地域連携による県内感染防御体制の強化

感染症に関する調査・研究

医療従事者及び県民向けの研修会・講座の開催

# 鹿児島大学 感染症専門医養成講座 概要

- 地域医療機関と密に連携した県内感染制御体制の確立 → 医療機関・施設等への感染症対策・実地支援の強化
- 感染症専門医の育成、メディカルスタッフへの教育
- 感染症に関する学術的調査・研究の実施 → 科学的なエビデンスに基づいた的確な感染症対策

## 県内研修施設との連携

鹿児島市立病院  
鹿児島生協病院

## 鹿児島大学

一体化

大学院医歯学総合研究科

## 感染症専門医養成講座

- ・診療及び実地支援の強化
- ・高度医療人の育成
- ・学術的調査・研究



大学病院

## 感染制御部

- ・院内感染対策
- ・サーベランス
- ・アウトブレイク対応

地域医療に大きく貢献



協力 技術協力  
疫学分析

国立健康危機管理研究機構  
感染症臨床研究ネットワーク事業  
県内研修会開催

密に連携

鹿児島県保健福祉部  
県環境保健センター

連携 地域活動・支援  
人材育成

鹿児島県医師会・  
鹿児島県看護協会等

- ・サーベイランス情報共有
- ・医療機関への診療・対策支援
- ・アウトブレイク等の実地支援
- ・メディカルスタッフ教育

令和6年3月



## (鹿児島県感染症予防計画)

### 第14 感染症の予防に関する人材の養成及び資質の向上

#### 1 基本的な考え方

- 新たな感染症対策に対応できる知見を有する多様な人材が必要となっていることを踏まえ、県及び保健所設置市は、感染症に関する幅広い知識や研究成果の医療現場への普及等の役割を担うことができる人材の養成を行います。
- また、大学医学部をはじめとする、医師等の医療関係職種の養成課程や大学院等においても、感染症に関する教育を更に充実させていくことが求められます。

#### 2 施策の方向性

##### (1) 感染症に関する人材の養成及び資質の向上

- 知事及び保健所設置市の長は、国立保健医療科学院、国立感染症研究所等で実施される感染症に関する研修会に保健所及び地方衛生研究所等の職員を積極的に派遣するとともに、地方衛生研究所等と連携しながら、感染症に関する講習会等を実施し、保健所等の職員の資質の向上を図ります。

##### (2) IHEATの活用

- 県及び保健所設置市は、IHEAT<sup>®</sup> 要員の確保や研修、IHEAT要員との連絡体制の整備やIHEAT要員及びその所属機関との連携の強化などを通じて、IHEAT要員による支援体制を確保します。
- 保健所は、平時から、IHEAT要員の活用を想定し、実践的な訓練の実施や支援を受けるための体制を整備します。

##### (3) 医療機関等における感染症に関する人材の養成及び資質の向上

- 感染症指定医療機関は、感染症対応を行う医療従事者に、新興感染症の発生を想定した必要な研修・訓練を実施すること又は、国、県及び保健所設置市若しくは医療機関が実施する当該研修・訓練に医療従事者を参加させるよう努めます。
- また、感染症指定医療機関は、新型インフルエンザ等感染症等発生等公表期間に、他の医療機関、宿泊施設及び高齢者施設等に円滑に人材派遣を行えるよう、平時から研修や訓練を実施するよう努めます。
- 医師会等の医療関係団体においても、会員等に対して感染症に関する情報提供及び研修を行うことが重要であり、県及び保健所設置市も資料の提供や講師の派遣等について積極的に協力します。
- 大学等の関係機関は、感染症の専門知識を有する医療従事者の養成に努めます。

##### (4) 関係機関及び関係団体との連携

- 県及び保健所設置市は、関係機関及び関係団体等が行う研修へ職員を参加させるとともに、その人材の活用等に努めます。
- 感染症の専門知識を有する医療従事者を各地域にバランスよく配置されるよう、県は、大学医学部をはじめとする医師等の医療関係職種の養成課程、大学院及び職能団体等との連携を図ります。

# 令和7年度 事業報告

	感染症専門医の養成	地域連携による県内感染防御体制の強化	医療従事者及び県民向けの研修会・講座の開催	感染症に関する調査・研究
実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島大学病院における日本感染症学会認定感染症専門医養成プログラムの作成・実施(2023年7月～)</li> <li>・鹿児島大学病院医師に対する受講生募集・プログラムの実施(2023年10月～)</li> <li>・鹿児島大学病院研修登録医制度に基づく養成プログラムの作成・プログラムの実施(2025年度1名・2026年度2名)</li> <li>・県内日本感染症学会認定研修施設(鹿児島市立病院・鹿児島生協病院)との連携による感染症専門医養成プログラムの実施・同施設指導医への客員教員称号付与</li> <li>・本講座のホームページ構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島県内感染対策向上加算1算定施設参加の連携カンファレンスの実施(年4回)               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 新興感染症対策における加算1と同加算2・加算3・外来感染対策向上加算算定施設との連携におけるサーベイランスやラウンド等のフォーマットの共有</li> <li>- 保健所・医師会との連携強化の支援</li> </ul> </li> <li>・鹿児島県内感染対策向上加算1施設間相互チェックのマッチングと、感染対策共通課題の改善プログラムの実施</li> <li>・鹿児島大学病院が事務局となる鹿児島感染制御ネットワーク学術講演会の開催、ホームページの管理</li> <li>・行政と連携した新興感染症等対応訓練</li> <li>・行政からの依頼に基づく医療機関等支援対応・地域での感染症流行対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー・Webinar開催</li> <li>・学生教育               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 医学科学生向け講義</li> <li>3年次感染症系のコーディネート</li> <li>- 医学科・保健学科学生向け 感染症医療人材養成事業 講義・実習</li> <li>- 修士課程(災害医療学等) 講義</li> <li>- 医学科4年生自主研究</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策に関する研究               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 新型コロナウイルス施設クラスターに関する後ろ向き調査による今後の新興感染症対策の在り方に関する研究(国立感染症研究所 実地疫学研究センターとの連携)</li> <li>- 医療機関における薬剤耐性菌対策強化に関する研究</li> <li>- 長崎大学・宮崎大学との西南九州地域における市中感染型MRSAの臨床研究</li> </ul> </li> </ul>

# 令和7年度 事業報告

	感染症専門医の養成	地域連携による 県内感染防御体制の強化	医療従事者及び 県民向けの研修会・講座の開催	感染症に関する調査・研究
実績	<p>★寄附講座受講者数 受講者数：14名 (鹿児島大学所属6名・他医療機関所属8名 感染症専門医取得を目的としたもの)</p> <p>★感染症専門医試験受験 <b>2名</b> (いずれも他医療機関所属)、<b>2名合格、受講修了</b></p> <p>参考 ・寄附講座と病院感染制御部在籍 感染症専門医未取得者 3名 ・協力講座 (血管代謝病態解析学・救急・集中治療医学) 教官2名 ・感染症専門医取得が難しいが、基幹医療機関や地域で感染症に関わる受講希望医師2名</p>	<p>★医療機関とのカンファレンス 医療機関とのカンファレンス 基幹医療機関感染制御担当者とのweb会議 (月1回 計12回開催) 大学病院主催感染対策向上加算地域連携カンファ (4回)</p> <p>★連携施設訪問・カンファ参加 (5施設)</p> <p>★行政機関との新興感染症等対応訓練の企画・実施支援 (鹿児島県・鹿児島市・名瀬保健所)</p>	<p>★セミナー・Webinarの開催 11回</p> <p>★感染制御高次専門家育成プログラムの実施 実地疫学研修会</p> <p>★講座主催シンポジウム</p> <p>★県民向け公開講座等 インフルエンザ・麻疹の感染対策 動画 県民向け公開講座 (2025年12月・2026年2月開催)</p> <p>★保健所等依頼研修会</p> <p>★他団体との共催研修</p> <p>・学生教育 - 医学科学生向け感染症系講義 - 医学科・保健学科学生向け 感染症医療人材養成事業 講義・実習 - 修士課程 (災害医療学) 講義 - 医学科4年生自主研究</p>	<p>★感染症に関する教育, 調査・研究</p> <p>●学会発表 国際学会 発表 1 国内学会 シンポジウム 一般演題 教育講演など</p> <p>●論文発表 欧文 (いずれも共著) 和文</p> <p>★活動に関する訪問・研修参加 三重大学 公衆衛生・産業医学・実地疫学分野 研究・教育面での連携検討</p>
	学内外でのネットワークの構築	アップデートな情報提供 医療従事者間では双方向性を重視した情報共有を行い、改善につなげる		

# 医学部学生講義 3年次感染症系

日程			
1/6(火) 9:00~10:30	感染症診療の基本的アプローチ1	川村英樹	感染症専門医養成講座
1/6(火) 10:40~12:10	感染症診療の基本的アプローチ2 医療機関における感染対策 標準予防策・血液媒介感染	川村英樹	感染症専門医養成講座
1/6(火) 13:00~14:30	抗微生物薬総論・科学的使用方法と副作用	大川大輔・茂見茜里	病院 感染制御部
1/7(水) 9:00~10:30	微生物検査	大山陽子	血管代謝病態解析学
1/7(水) 10:40~12:10	ワクチン総論	西 順一郎	微生物学分野
1/7(水) 13:00~14:30	グラム陽性菌の感染症と抗菌薬	高橋宜宏	感染症専門医養成講座
1/8(木) 9:00~10:30	自主学習		
1/8(木) 10:40~12:10	グラム陰性菌の感染症と抗菌薬	大川大輔	病院 感染制御部・救命救急センター
1/8(木) 13:00~14:30	市中でみられる呼吸器感染症	山口浩樹	鹿児島生協病院
1/9(金) 9:00~10:30	HIV感染症	藤崎 知園子	先端科学研究推進センター バイオバンク部門
1/9(金) 10:40~12:10	中枢神経系の感染症	池田賢一	鹿児島市立病院
1/9(金) 13:00~14:30	グローバルヘルス・輸入感染症	古本朗嗣	長崎大学病院 感染症医療人育成センター
1/13(火) 9:00~10:30	ケーススタディ1	川村・高橋	
1/13(火) 10:40~12:10	抗酸菌感染症	久保田真吾	感染症専門医養成講座
1/13(火) 13:00~14:30	渡航者における感染症とその予防	久保園高明	済生会鹿児島病院
1/14(水) 9:00~10:30	人畜共通・ダニ媒介感染症	川村英樹	感染症専門医養成講座
1/14(水) 10:40~12:10	ケーススタディ2	川村・大川	
1/14(水) 13:00~14:30	医療関連感染症で多い病原体とリスク因子その治療と予防	高橋宜宏	感染症専門医養成講座
1/14(水) 14:40~16:10	チュートリアル		
1/15(木) 9:00~10:30	手術部位感染症	大脇哲洋	地域医療学分野
1/15(木) 10:40~12:10	歯科領域の感染症	中田匡宣	歯学部 口腔微生物学
1/15(木) 13:00~14:30	小児でよく見られる感染症	高橋宜宏	感染症専門医養成講座
1/19(月) 9:00~10:30	薬剤耐性菌の治療・対策	川村英樹	感染症専門医養成講座
1/19(月) 10:40~12:10	ケーススタディ3	川村・大川	
1/19(月) 13:00~14:30	ケーススタディ4	川村・高橋	
1/19(月) 14:40~16:10	チュートリアル		
1/20(火) 9:00~10:30	真菌感染症	久保田真吾	感染症専門医養成講座
1/20(火) 10:40~12:10	医療機関における感染対策 経路別予防策・洗浄/消毒/滅菌	川村・有村尚子・稲森 彩	病院 感染制御部
1/20(火) 13:00~14:30	緊急性を要する感染症・救急医療	大川大輔	病院 感染制御部・救命救急センター
1/21(水) 9:00~10:30	高齢者でみられる感染症とその対策 骨関節感染症	川村英樹	感染症専門医養成講座
1/21(水) 10:40~12:10	原虫・寄生虫感染症	川村英樹	感染症専門医養成講座
1/21(水) 13:00~14:30	感染症法と市中での感染対策・食中毒	中村匡宏	鹿児島市保健所 中央保健センター
1/22(木) 9:00~10:30	自主学習		
1/22(木) 10:40~12:10	ワクチン各論	西 順一郎	微生物学分野
1/22(木) 13:00~14:30	感染免疫と免疫不全者での感染症	児玉祐一	鹿児島市立病院
1/23(金) 9:00~10:30	自主学習		
1/23(金) 10:40~12:10	感染症の実地疫学	神谷 元	三重大学大学院医学系研究科公衆衛生・産業医学分野

# 感染症対応訓練（机上研修）

## 医療・福祉



新興感染症発生時の対応について話し合う医療関係者ら  
＝3日、鹿児島県庁

新興感染症発生時の対応力強化に向けた訓練が3日、鹿児島県庁であった。医師と看護師、行政職員ら61人が参加。医療機関や保健所、行政の立場から、新たな感染症が発生した際の連携や対処について話し合った。

3月に改定された「県新型コロナウイルスエンザ等対策行動計画」に基づき初めて実施した。2次、3次救急の病院やクリニック、保健所、行政など10グループに分かれ、感染症への対応を検討。病院は腹痛や下痢を訴える患者の問診や入院対応、保健所は管轄地域で同様の症状が報告されていないかなどを確認した。

## 新たな感染症へ対応訓練 鹿県庁

### 医療・行政関係者ら協力

PHSで行政や他のグループと、患者や地域の感染情報を共有。入院が必要と判断した場合は、3次救急病院に搬送を促すなど手順を追った。

訓練を見守った鹿児島大学病院感染制御部の川村英樹医師(49)は「役割ごとの動きの確認や、日頃からのネットワークづくりが重要。地域で連携を強化しなければ」と助言した。

講師を務めた川崎市健康安全研究所(神奈川)の三崎貴子所長(62)は「訓練を通し、医療機関と行政の連携の重要性に気付いていたようで良かった。感染症発生時の迅速な活動につながってほしい」と話した。(児玉菜々子)

## 感染症流行備え対応訓練 鹿児島県立大島病院 医療機関、保健所の連携確認

3/10(火) 13:00 配信



県立大島病院で行われた「健康危機（感染症）対応訓練」＝9日、鹿児島県奄美市名瀬

名瀬保健所が主催する「健康危機（感染症）対応訓練」が9日、鹿児島県奄美市名瀬の県立大島病院であった。感染症発生時の対応能力向上を目的とした机上訓練で、奄美大島と喜界島、徳之島の医療機関、保健所職員ら約40人が参加。参加者に事前に想定や内容を伝えない「ブラインド方式」の訓練で、現場の即応性や各機関との連携体制を検証した。

訓練は川崎市健康福祉局健康安全研究所の三崎貴子所長らを講師に迎え、参加者が五つの医療機関（病院・クリニック）と一つの保健所役に分かれるグループワーク形式で行った。

各医療機関には、せきや発熱など症状が共通するものの病名不明な「患者役」が次々と来院。参加者は患者の問診結果と県公表の感染症情報などを突き合わせ、インフルエンザや新型コロナウイルスとの識別、保健所への報告要否を検討した。保健所役のグループには医療機関からの報告に加え、学校から「休校の判断」を問う電話などが殺到。情報の集約と判断に追われた。

訓練後の振り返りでは、感染症情報の把握不足や患者待機場所の確保、検査方法や行動歴の確認漏れなどが課題として浮上。対策としてICT（情報通信技術）の活用や院内マニュアルの見直し、行政検査の急増を想定した体制整備などが提案された。

総括では、鹿児島大学感染症専門医養成講座の川村英樹特任教授が各機関ごとの役割の明確化と平時からの備えの重要性を強調。離島特有の「顔の見える関係」を軸とした、関係機関の連携強化を訴えた。

# 鹿児島大学 感染症専門医養成講座 活動報告

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科の「感染症専門医養成講座」が実施する多岐にわたる事業をまとめ、専門医の育成から地域全体の防御体制強化、そして最新の研究まで、4つの柱となる活動の概要と主な実績を紹介します。

## 1. 感染症専門医の養成

**13名** 医師が専門医取得を目指して受講中

専門医養成プログラムで未来のリーダーを育成

鹿児島大学病院

県内研修施設



多様な受講制度

大学所属医師だけでなく、他医療機関の医師も研修登録医として参加可能です。

2名の医師が感染症専門医を取得

## 3. 医療従事者及び県民向けの研修会・講座の開催

専門家から市民まで、幅広い層への教育・啓発



専門家向けセミナーから高校生・一般県民向けの公開講座まで、多様な研修会を開催しています。

タイムリーな情報提供

インフルエンザ・麻疹など地域で問題となるテーマで動画配信等を実施



## 2. 地域連携による県内感染防御体制の強化

医療機関・行政とのネットワークを強化



web会議・カンファレンス・訓練を通じた医療機関・保健所との連携



実践的な新興感染症対応訓練を支援  
県や市が主催する訓練の企画・運営をサポートし、有事への備えを固めています。



現場への直接的な支援

連携施設への定期的訪問や保健所からの依頼に基づき、各医療機関の感染対策を支援します。



## 4. 感染症に関する調査・研究

感染症の2大課題に関する研究を推進

新興感染症

薬剤耐性菌

ワンヘルス・プラネタリーヘルスを基盤テーマに他大学・機関と連携して研究を推進



研究テーマ

COVID-19の教訓を活かす研究と、医療機関での薬剤耐性菌対策を強化する研究に取り組んでいます。



# ミッション1: 感染症専門医の養成

- ・コンセプト：鹿児島県内で不足する感染症専門医の育成 **KPI: 令和8年度までに6名の感染症専門医の育成**
- ・提供価値：地域に感染症専門医を配置することで、基幹医療機関における感染症の診療の質向上と、地域のリソースに応じた感染症診療の連携・ネットワーク形成が可能となる
- ・ターゲット：地域の感染症診療に関わる医師

Strength (強み)	Weakness (弱み)	Opportunity (機会)	Threat (脅威)
<p>1. 講座と基幹病院の連携・ネットワーク形成：鹿児島大学を中心とした関連病院のネットワークにより、地域のリソースに応じた感染症診療の連携とネットワーク形成を可能にできる。 →医療用SNSやwebカンファを活用した連携強化</p> <p>2. 地域医療の質向上：COVID-19により強化された地域の基幹病院と他医療機関や保健所等との連携が、基幹病院に感染症専門医を配置することで、感染症の診療の質が向上できる。これにより、患者の治療効果が高まり、新興感染症や薬剤耐性菌の拡大防止に寄与する。</p>	<p>1. 資金調達の依存度：寄付金と経費収入に大きく依存しているため、経済的な変動等に弱い。</p> <p>2. 専門医育成の時間とコスト：感染症専門医の育成(基礎領域専門医取得+学会入会后3年の指定医療機関研修)には時間とコストがかかり、事業のスケールアップを遅らせる要因になる。 機構専門医制度では、内科専門医との連動研修が困難なこと、臓器別講座体制での内科専門医の感染症専門医育成にハードルが高い。</p> <p>3. 地域における専門医の偏在：鹿児島県内でも地域によっては専門医の偏在が生じる可能性があり、一部地域でのサービス品質の低下を招く恐れがある。</p> <p>4. 論文・学会発表活動の取り組みはさらに強化が必要</p>	<p>1. 内外のパンデミックへの備え：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックのような状況において、感染症専門医の需要は高まります。この事業は、将来的なパンデミックへの備えとしての重要性が高まる。</p> <p>2. 技術進化による診療の質向上：遠隔医療やAIを活用した診断支援ツールの進化により、診療の質がさらに向上する機会がある。</p> <p>3. HIV診療等感染症専門医として必要な知識の獲得のための研修機会</p> <p>4. 教育・研修プログラムのモデルケースとしての普及：この事業が成功すれば、他の地域や異なる専門領域にも展開可能なモデルケースとして機能する可能性がある。</p>	<p>1. 感染症の急速な変化：新たな感染症の出現や既存の感染症の変異により、専門医の知識や技術の迅速なアップデートの必要性が生じる可能性がある。</p> <p>2. 他地域への専門医の流出：専門医の待遇やキャリアパスを十分に提供できなければ、他地域への流出が起きる可能性がある。</p>

# ミッション2:地域連携による県内感染防御体制の強化

・コンセプト：地域連携による鹿児島県内医療機関における医療関連感染症防御体制の強化

**KPI：感染症相談対応件数60件**

・提供価値：COVID-19のような新興感染症や薬剤耐性菌の集団発生を起こさないことによる医療機能の維持、医療関連感染症の減少による診療の質向上

・ターゲット：地域の感染制御に関わる医療従事者や保健所等職員

Strength (強み)	Weakness (弱み)	Opportunity (機会)	Threat (脅威)
<p>1. 感染症防御体制の強化による医療サービスの質の向上：地域医療機関における医療関連感染症の拡大防止により、患者の安全と満足度を高め、医療サービスの質の向上に直結させる。</p> <p>2. 地域連携による情報共有と資源の最適化：鹿児島大学病院が事務局となっている鹿児島感染制御ネットワーク(KICNet)の人的連携や、鹿児島感染制御サーベイランスシステム等が既存リソースとして活用可能である。さらに地域の医療機関間での情報共有と連携を強化し、資源の最適化および対策の標準化を実現し、効率的な感染症対策の展開を可能とする。</p>	<p>1. <b>人材育成と維持の難しさ</b>：高度な専門性を持つ医療従事者の育成と維持は、時間とコストがかかる。<b>大学が核となった体制整備が貴重なリソース。</b></p> <p>2. 地域医療機関間の協力体制の構築の難しさ：地域医療機関間での連携と協力体制の構築は、異なる組織文化や利害関係の調整が必要であり、これが課題となる可能性がある。</p>	<p>1. 新興感染症や薬剤耐性菌への対応強化：COVID-19パンデミックをはじめとする新興感染症や薬剤耐性菌に対する対応力強化は、地域医療のレジリエンスを高める重要な機会を提供する。 →JIHSと感染症指定医療機関とのネットワークなど対応能力の強化へ</p> <p>2. 公衆衛生への意識向上による支援の増加：公衆衛生に対する社会的な関心の高まりは、事業への支援や資金調達の機会を増やす可能性がある。</p> <p>3. テクノロジーの活用：デジタル技術の進展により、県内感染症専門家のネットワーク構築が充実することで、事業の価値を高めることができる。</p>	<p>鹿児島では比較的検出率の低いバンコマイシン耐性腸球菌やカルバペネム耐性腸内細菌目細菌は他地域で増加しており、連携構築ができていない療養型医療機関・介護施設でのサイレントパンデミックの発生や、医療機関への持ち込みリスクが存在する。</p>

# ミッション3:医療従事者及び県民向けの研修会・講座の開催

・コンセプト：医療従事者及び県民向けの感染症に関する研修会・講座の開催

**KPI:行政機関と連携した地域支援感染制御活動（研修・訓練）6回**

・提供価値：問題となっている新興感染症や薬剤耐性菌などの感染症に関する問題の認知向上・リスク共有により、予防施策の円滑な実施につなげ、感染症患者数の減少や医療機関の機能維持につなげる

・ターゲット：一般市民・地域の医療・介護業務従事者や保健所等職員

Strength（強み）	Weakness（弱み）	Opportunity（機会）	Threat（脅威）
<p>1. 感染症対策の知識向上：COVID-19下で医療機関・福祉施設等での対策の重要性が啓発され、施設や職能団体等からの研修会の共催や講師依頼などが増加している。最新の感染症情報と予防策を医療・介護従事者に提供することで、地域全体の感染症対策の知識レベルが向上する。</p> <p>2. 多方面からのアプローチ：医療従事者だけでなく、一般市民を対象とすることで、広範囲にわたる予防意識の醸成と感染症リスクの共有が可能となる。</p> <p>3. 地域医療機関の機能維持：感染制御のレベルアップにより、医療機関の過負荷を防ぎ、医療サービスの質の維持に貢献できる。</p>	<p>1. 参加者の動機付け：一般市民および医療従事者に研修会や講座への積極的な参加を促すための効果的な動機付けが必要。</p> <p>2. 情報の質と更新：最新かつ正確な感染症情報の提供には、専門知識を持った講師の確保と情報の定期的な更新が必要。</p>	<p>1. デジタル技術の活用：オンライン研修やウェビナーを通じて、より多くの人々に容易にアクセス可能な教育機会を提供することが可能。特に離島の多い鹿児島では活用のメリットが大きい。</p> <p>2. 公衆衛生の意識向上：COVID-19パンデミックによる公衆衛生への関心の高まりを利用して、研修会・講座への参加意欲を高めることができる。</p> <p>3. パートナーシップの構築：医療機関に加えて、行政・職能団体等とのパートナーシップを構築し、リソースと情報の共有を図ることが可能となる。</p>	<p>情報過多による関心の低下：情報過多の時代において、特定のテーマに対する注意が散漫になり、また不正確な情報の流布により研修会や講座への関心が低下する可能性がある。</p>

# ミッション4:感染症に関する調査・研究

- ・コンセプト：鹿児島県内における感染症に関する調査・研究
- ・提供価値：問題となっている薬剤耐性菌や医療感染感染症の発生率の把握、医療関連感染対策に関する課題抽出等の調査から、発生率低減につなげる改善策の立案やその有効性などの研究を行うことで、医療の質向上や医療機関の機能維持につなげる  
新興感染症・薬剤耐性菌で共通する課題であるワンヘルス・プラネタリーヘルスをテーマとした横断的研究の実施
- ・ターゲット顧客：地域の感染症診療に関わる医療従事者や調整を行う保健所職員  
ワンヘルス・プラネタリーヘルスを研究テーマとする感染症研究者

Strength (強み)	Weakness (弱み)	Opportunity (機会)	Threat (脅威)
<p>1. アカデミアとしての専門性の高い研究: 感染症に関する調査・研究を通じて、地域特有の薬剤耐性菌や医療関連感染症の問題に対する専門的知識と解決策を社会に提供する。また、アカデミアが感染症専門者に高度教育を提供することで、キャリアアップにつなげることも可能となる。</p> <p>2. 医療の質向上への貢献: 発生率の把握と改善策の立案を医療機関等に対し行うことで、医療機関の感染症管理の質を向上させ、医療サービス全体の改善に寄与できる。</p>	<p>1. 研究の実施・成果の実用化の難しさ: 研究の実施や成果を実際の医療現場での実用化に結びつけるには、追加の努力や資金が必要である。</p> <p>2. <b>人材確保の課題</b>: 専門的な知識を持つ研究者や医療従事者を確保することは、特に地方では難しい。</p>	<p>1. 感染症対策の社会的関心の高まり: COVID-19パンデミックを受けて、感染症対策への社会的関心が高まっており、支援や協力の機会が増えている。</p> <p>2. 公私のパートナーシップ: 地方自治体や国・大学の支援プログラム(<b>iCROWN・J-PEAK等</b>)を活用することで、追加の資金調達や研究の促進が期待できる。</p> <p>3. 最新技術の活用: データ分析技術やAIの進化により、感染症の監視や研究の効率化、精度の向上が期待できる。</p>	<p>他機関との競争: 同様の研究を行う他の機関との競争により、資金調達や人材確保が難しくなる可能性がある。</p>

# 各ミッションの今後の課題

感染症専門医の養成	地域連携による 県内感染防御体制の強化	医療従事者及び 県民向けの研修会・講座の開催	感染症に関する調査・研究
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域（基幹医療機関・行政、周辺医療機関等）との強い連携</li> <li>・face to faceのコミュニケーションとITの活用による連携関係の強化</li> <li>・専門医（取得希望者）に対するインセンティブの提供</li> <li>・他大学の寄付講座とのネットワーク構築・情報共有</li> <li>・<b>専門医育成の継続性確保</b></li> <li>・<b>医学部学生～専門医取得までのシームレスな感染症教育体制の構築</b></li> <li>・<b>臓器別専門に進む流れの中で、診療横断的領域での専門医育成体制整備</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門人材の確保と維持</li> <li>・<b>地域・離島ネットワークの強化</b></li> <li>・医療・行政ワンチームでの地域医療機関間の効果的な連携体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の興味と動機付け（市民向け）</li> <li>・参加を促すためのインセンティブの提供（医療・介護等従事者向け）</li> <li>・グローバルな専門家ネットワークの構築による情報の質と定期的な研修内容の更新</li> <li>・<b>医学生等への早期教育と魅力の発信</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果の実用化、現場に迅速に適用するためのシステムの確立</li> <li>・優秀な人材を引きつけるための環境整備</li> <li>・<b>研究・学位取得を含めたキャリア形成</b></li> </ul>

・事業の持続可能性を確保するための多角的な資金調達戦略  
←J-PEAKS, iCROWNなどの外部資金の活用

- 医療連携

- 鹿児島大学病院を中心とした医療機関ネットワークの維持・拡大
- 行政機関との連携の維持・強化

- 卒前・卒後のシームレスな教育とネットワーク形成

- 医学部学生などの卒前教育
- 鹿児島大学病院等での初期研修医教育
- 県内医療機関での継続的・発展的な専門医・専門家養成（臨床・研究発表含む）
- 養成専門家の人材バンク機能と必要時の支援依頼

- 社会的活動

- 大学・地域（医療機関・保健所等）での研修会・訓練の開催、開催支援
- 医療機関・地域における感染症危機に関する支援対応
- 教育・調査・研究の継続による大学からのUp To Dateな医療機関等への情報提供の継続
- 感染症対策に関するシンクタンク機能の拡充

# 令和8年度事業計画

感染症専門医の養成	地域連携による 県内感染防御体制の強化	医療従事者及び 県民向けの研修会・講座の開催	感染症に関する調査・研究	KPI
院内外でのネットワークの構築		Up To Dateな情報提供 医療従事者間では双方向性を重視した情報共有を行い、改善につなげる		
<ul style="list-style-type: none"> <li>★専門医資格取得支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門医プログラム研修の実施</li> <li>・研究発表支援</li> <li>・研修時の経験症例サマリー作成サポート</li> </ul> </li> <li>★在籍医療機関・診療科における活動・ポジションの確立のサポート               <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療用情報共有アプリの活用</li> <li>・医療機関訪問による実地支援</li> </ul> </li> <li>★HIV診療や指定医療機関での対応が求められる感染症に関する専門医既取得者・取得予定者に対するon/off the job training</li> <li>★感染症専門医養成体制の充実を目的としたシンポジウムの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★医療機関とのカンファレンス 基幹医療機関とのweb会議（月1回程度） 感染対策向上加算地域連携カンファ（年4回） 医療機関連携を目的とするカンファレンスの企画・開催支援 <b>平時からの薬剤耐性菌対策を含む感染症診療教育および地域支援（令和7年度補正）</b></li> <li>★連携施設訪問・院内カンファ参加</li> <li>★行政・保健所との訓練開催支援</li> <li>★HIV診療体制に関する連携関係構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★市民公開講座等の開催・流行感染症に対する啓発資料等の作成・配信</li> <li>★医療・介護系団体等と連携した医療・介護施設職員向け研修・マニュアルの整備</li> <li>★セミナー等 鹿児島感染制御ネットワーク講演会・パネルディスカッション 講座主催webinar 基幹医療機関・職能団体等と研修会共催</li> <li>★学生講義 医学科学生講義に関する講義企画・運営 歯学科・保健学科学生への講義</li> <li>★感染制御高次専門家育成プログラムの実施 <b>実地疫学研修や報道対応研修の実施</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★受講生のキャリア形成に活用しうる、感染症に関する教育、調査・研究・学会活動等 外部機関との実地疫学研究連携強化</li> <li>★離島へき地で応用可能な、薬剤耐性菌等分子疫学的解析の検討</li> <li>★帯状疱疹ワクチンの有効性研究等の疫学研究</li> <li>★J-PEAKS関連ワンヘルス・プラネタリーヘルスをテーマとした研究</li> </ul>	<p>県内医療機関の受講生を中心としたネットワーク確立による直接的・間接的に専門医が関与できる診療医療機関を確保（目標10医療機関）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>*プロセスインジケター 連携・訪問医療機関数：県内医療圏を網羅する10医療機関</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>*プロセスインジケター 講座主催webinar: 10回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*プロセスインジケター 受講生論文発表：3件</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門医の養成</li> <li>★今後の感染制御の連携・人材育成を目的としたシンポジウムの開催</li> <li>★講座終了後の人材バンク機能の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹医療機関とのネットワーク強化</li> <li>・基幹医療機関と保健所・地域医療機関等との連携強化</li> <li>★行政と連携した新興感染症等対応訓練の開催</li> <li>★地域での薬剤耐性菌・重症感染症サーベイランス体制構築基盤整備（令和7年度補正・iCROWN事業）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会・市民公開講座・webinarの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続可能な研究体制の構築</li> </ul>	<p>感染症専門医4名以上の養成</p> <p>各医療圏を網羅する、専門医関与の（直接的・間接的）診療体制確立</p>

# 感染制御部における他部門との連携した初期研修

## 感染制御部

### ★active learning

- ・抗菌薬等基礎的知識の習得
- ・感染対策に関する基礎的知識の習得

### ★on the job training

- ・血液培養陽性例等微生物検査の適切な診断に関する実地研修
- ・他診療科からのコンサルテーション症例に関する、他部門とのコミュニケーションに基づく診療実践に関する実地研修

## 検査部

### ★active learning

- ・微生物検査に基づく診断に関わる基礎的知識の習得
- ・HIV診療に関わる基礎的知識の習得

### ★on the job training

- ・微生物検査の業務フローやグラム染色等の検査手技に関する実地研修

## 救命救急センター

### ★active learning

- ・重症感染症初期治療に関する基礎的知識の習得

### ★on the job training

- ・救急に感染する基本的手技の取得
- ・重症感染症の初期診断治療の実地研修
- ・多彩な市中感染症の初期から治療終了まで一貫した実地研修（救急科）
- ・臓器不全例における全身管理の一環としての感染症診療実地研修（集中治療部）

# J-PEAKS関連研究 令和7年度新CHODAI共創グラント 市中で獲得するMRSAの感染制御戦略の構築

宮崎大学

内科学講座 呼吸器・膠原病・感染症・  
脳神経内科学分野

長崎大学

病態解析・診断学分野

鹿児島大学

感染症専門医養成講座

市中感染型MRSA菌株の収集  
市中感染型MRSA感染症臨床情報の収集  
市中感染型MRSAを保有している人の生活習慣・社会的背景情報の収集

## ①市中感染型MRSAの疫学



## ②市中感染型MRSA感染症の臨床像

市中感染型MRSA



基礎疾患のない患者の  
深部皮膚感染症

検出

市中感染型MRSAはクローンにより  
重症度が異なるのか？  
ST22-PTはより重症？

## ③MRSAを市中で獲得するリスク因子

日常生活のどのような場面でMRSAが伝播しているのか？

例)



学校



スポーツ



マッサージ

感染対策を重点的に行うべき場所の特定

# J-PEAKS関連 長崎大学パンデミック総合研究センター



図：パンデミック総合研究センター研究チームのイメージ

パンデミック発生前対策

パンデミック発生後対策

パンデミック発生時対策

融合研究  
チーム

Zoonosis

Environment

Data & Information

Literacy

Critical analysis

研究内容

野生動物を含む動物における行動および病原体調査  
新たなZoonosisとなり得る病原体の探索・評価

環境DNAなど新しい病原体サーベランスシステムの構築

グローバルな感染症情報の収集分析・人や動物の移動等のビッグデータ分析等、流行予測シュミレーション

感染症の教育コンテンツ開発と発信・社会教育  
リスクコミュニケーション研究

様々な感染防御対策の有効性検証（実験やデータ分析）  
社会への影響調査

# 令和8年度鹿児島大学地域活性化研究支援事業申請

## One Healthに基づく新興ダニ媒介性ウイルスの統合的解析と感染症制御への展開

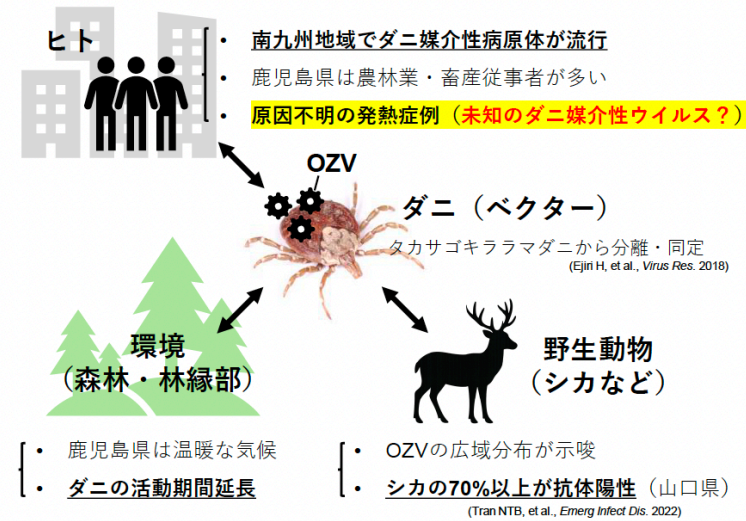
### 研究背景と課題

- ・ **オズウイルス (OZV)** は、2013年に愛媛県のマダニから分離された新規ウイルス
  - ・ 野生動物の血清疫学調査により、西日本を中心に広く分布していると推定
  - ・ **2022年、茨城県でOZV感染による死亡例が発生** (世界初の報告) (Osawa S, et al., *N Engl J Med* 2025)
  - ・ 感染経路・病態機序は不明、有効な治療法は未確立
  - ・ 鹿児島県では、**OZVのヒトにおける体系的な血清疫学調査は未実施**
- ⇒ **鹿児島県におけるOZVの感染実態の解明とリスク評価、**  
**感染症制御・制圧に向けたサーベイランス体制の確立と創薬研究への展開が急務**

### 研究目標

- ✓ 鹿児島県における初のOZVに対する血清疫学調査を実施し、**感染実態を解明**する
- ✓ OZV人工合成系を用いて、**OZVの複製機構と病原性発現機構を解明**する
- ✓ 化合物スクリーニングをおこない、**新規抗OZV薬候補を同定**する

### 『One Health』の視点から見たOZV



### 研究体制・3つの研究ユニットの連携による共同研究推進

#### 基礎研究・創薬ユニット (ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

赤堀 (研究代表者)・前田 (ウイルス学) / 近藤 (トランスレーショナルリサーチ)

- OZV複製機構および病原性解析
- 化合物スクリーニング・創薬研究



#### 疫学・公衆衛生ユニット (県環境保健センター・医学総合研究科)

松岡・濱田 (行政・鹿児島県環境保健センター) / 川村 (感染症専門医)

- 臨床検体収集・血清疫学解析
- OZV感染症リスク評価



#### 技術基盤ユニット (越境性動物疾病制御研究センター)

松本 (獣医・ウイルス学)

- OZV人工合成系の提供
- ELISA系の提供



### 研究成果の統合と社会実装

鹿児島県の特徴を活かした『One Health』型アプローチにより、全国に先駆けて**新興ダニ媒介性感染症対策の新たなモデル**を創出する

鹿児島県における継続的な検体収集・解析基盤の構築



鹿児島県における新興ダニ媒介性ウイルスの監視・対策モデルの構築



行政への政策提言・対策強化迅速な公衆衛生対応



県民の健康生活の向上地域社会の安定化